

第2580地区

東京セントラルパークロータリークラブ

The Rotary Club of Tokyo Central Park

Weekly Report

2016～2017年度スローガン

『 伝えよう！クラブの歴史と文化を 』

第29回（通算1623回）2017年2月23日

◆ ◆ ◆ 本日の例会 ◆ ◆ ◆

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 〈1〉 開会点鐘 宮代明月会長 | 〈7〉 委員会報告 御苑・セントラルパーク |
| 〈2〉 ロータリーソング「我らの生業」 | 〈8〉 新入会員入会式 |
| 〈3〉 ビジター紹介 | 〈9〉 ニコニコBOX 報告 御苑・セントラルパーク |
| 〈4〉 会長挨拶 宮代会長・富永会長 | 〈10〉 出席状況報告 御苑・セントラルパーク |
| 〈5〉 幹事報告 豊田幹事・鈴木幹事 | 〈11〉 卓話 |
| 〈6〉 誕生日のお祝い | 〈12〉 閉会点鐘 宮代会長 |

◆ ◆ ◆ 本日の卓話 ◆ ◆ ◆

本日の例会 — 東京セントラルパーク RC・東京御苑 RC 合同例会 —

演題 「アームレスリングと相撲」

東京都立足立新田高等学校 3年 臼井亮裕君

次週の卓話 〈2/28〉 「ロータリー活動に於ける職業奉仕」
地区職業奉仕委員会カウンセラー、RI 第 2580 地区パストガバナー（東京神田 RC）
多田 宏 氏

◆◆◆ 先週の例会記録 ◆◆◆

2017年2月14日 第28回(通算1622回)
開会点鐘 富永会長 27F「エクセレンス」
*ゲスト紹介 1名 溝口浩一様(入会希望者)
出席 27名 欠席 5名 (免除者 2名)
出席率 90.00% 補正出席率(1/31) 86.66%

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 2/21は例会休会日です。2/23 19時開始 場所は、ワシントンホテル ペガサスの間にて次回の例会が開かれます。
- ロータリー青少年指導者育成プログラム は当2580地区ではありませんが、研修会がRIロータリー青少年指導者育成プログラム委員会及び豊田RC等の共催により開催されます。主な対象は青少年奉仕委員長ですが、どなたでも参加できます。参加希望の方は事務局まで。開催日は3/24から3/26場所は全トヨタ労連研修センターです。
- ハイライトよねやまが配信されています。御覧になりたい方は、米山記念奨学会のHPから。
- IMの登録料6000円を皆様お支払い宜しくお願いします。

第2回被選理事会議事録

2月7日(火)午後1時30分よりB1「吉野」に於いて「第2回被選理事会」を開催致しました。審議内容は下記の通りです。

出席/白石、松林、橋本、小林、渡辺、古内、富永、榛村、牧野、萱森、花形 (以上11名)

- 次期会長クラブ運営の件(会長スローガン) 温故知新一先人に学びロータリーを楽しもう
- 次期委員会編成の件 委員会編成は、SAA副委員長に勝俣会員、国際奉仕副委員長に牧野会員に変更になりました。
- 次年度主要日程の件の件 承認されました。
- 「クラブ研修リーダー」選任の件 渡辺功一会員が選任されました。
- 第3回被選理事会開催の件 5月9日(火)13:30から開催と決定。

以上の通りご報告いたします。

2017-18年度 幹事 橋本国彦

◆◆◆ ニコニコBOX 報告 ◆◆◆

富永会員:①皆出席表彰ありがとうございます。
②入会希望者 溝口浩一様をよろしくお願ひします。
牧 会員:情報集会の際はありがとうございました。会長、幹事お疲れ様でした。勝俣会員、川松会員、後藤会員、イニシエーションスピーチがんばって下さい。
佐野会員:普段欠席ですが、今日は遅れました。ニコニコと頑張ります。
鈴木会員:皆様、情報集会お疲れ様でした。

今週の合計 4件	16,000円
今年度累計	800,503円

◆◆◆ 先週の例会より ◆◆◆



皆出席表彰 11年の富永会長へ
白石副会長より記念品の授与



1月度ニコニコ大賞の原田会員

2月
平和と紛争予防/紛争解決月間

第2回情報集会議事録

テーマ「職業奉仕」

【事例2】

同じクラブのある会員Cさんは、地元でよく知られた事業主です。この会員はこれまでクラブの奉仕活動で大きな貢献をしてきましたが、最近、事業が難局に入ったために思い切った財務活動を行い、結果的に多くの顧客に損害が発生しました。地元の人は、この会員の事業主としての倫理性を問い、地域社会をより良くしようという意思が本当にあるのかと疑っています。また、この会員のマイナスイメージが、クラブの評判にも影響し始めました。こんな状況に対し、あなたならどうしますか。

【事例3】

会員Dさんのクラブでは、教育設備が限られた貧困地域の学校にパソコンを設置し、教師への研修を行うプロジェクトを計画し、そのための資金を集めています。ある日、著名な企業の幹部である会員のEさんから資金の大部分を提供してもよいとの申し出を受けました。この申し出を受ければ、必要なパソコンがすべてそろい、プロジェクトを早めに完了させて、子どもたちへの授業を開始できます。しかし、Dさんはこの申し出を受けるべきかどうか悩んでいます。というのも、最近メディアで、この企業の倫理が問われる事態が報道されたからです。この申し出を断れば、このプロジェクトの完了はだいぶ先になってしまいます。こんなとき、あなたならどうしますか。

【事例4】

会員Aさんは、父の代からロータリー活動をしてきましたが、最近、競争関係にある同業者のBさんから、他の会合でメンバーの一人からロータリークラブに誘われたので、推薦者になってくれとの話がありました。周辺からの話では、奉仕活動への関心ではなく、ビジネスのための入会と思われました。個人的には推薦するつもりはないが、クラブのためには一人でも増強したいところです。あなたはどうか対応すれば良いでしょうか。

【事例6】

クラブでは、職業奉仕とは「自分の仕事を一生懸命行えばいい」という意見と、職業奉仕とは「自分の会社をつぶさなければいい」という意見があります。あなたはどちらの意見ですか。

● 第1グループ

リーダー：中山会員 リポーター：川松会員

日時：2月7日(火)午後6時～

場所：銀座「サンク」 出席者：9名

富永会長：冒頭ご挨拶

炉辺会、Fire Side Meeting に相当するのがこの情報集会であり、皆さん活発なご討議をお願いします。

【事例2について】

○厳しい経営判断がやむを得ないことはあり得る。生き残るための選択肢は本人に委ねられるべき。

○本人の判断で退会するというのがロータリーとしての王道。どういう状態であったとしても地域に迷惑を掛けたのが事実なら、そしてそれを本人が認めるなら自ら退会すべき。

○損害の内容にも依るのではないか。本人の判断に依るべき。つまり会として会員として出来ることはない。花形会員と同意見。

○本人と話し合いたい。最後は本人の判断だが、本人とよく話し合いたい。

○退会というのが穏当な判断とは思いますが、強制はできない。

○本人に任せて、頑張れと見守るのが王道。ただし自分なら退会するだろう。

○この事例は倫理性を問われる問題ではない。倒産したら欠格か？自己判断が原則ではないか。

○この会員を助けようという意見はないのか。

○助けないというのはロータリーの精神に反するのではないか。

○ロータリーは互助会ではない。

○クラブの評判が落ちたならクラブとしての判断はあり得るのではないか。事前に本人から相談もなく、結果としてクラブの評判が落ちたなら一定レベルでのクラブの判断はあるべき。

○各人の考え、答えがあつてよい。クラブに大きな貢献をしている、かつロータリアンとしての認知もあるような人間なら、自分で進退を判断できるはず。事実に基づいた判断と4つのテストとの照合が必要。

【事例3について】

○法的に問題のない資金であれば、どちらでもよいのではないか。事業遂行を急ぐなら、それを優先してもよい。

○法的にクロと確定してなければ、かつ事業の目

的が正当であればいいのではないか。お金の色はない。

- 前田会員・鈴木幹事：深谷会員と同意見。
- 職業奉仕の精神が重要かつプロセスも重要。
- プロジェクトを早期にというのは大事。会員間でその人がどう認識されているかも重要。ただしプロジェクトの80-90%を一人の人間が出すということがむしろ問題かもしれない。さらにいつまでに必要なプロジェクトかという観点もあり。

【事例6について】

- ロータリーの原点は職業奉仕。
- 企業倫理を高めるのがロータリーの理念。倫理性の低い会社、事業は結局、持続性がないはず。倫理性を維持する企業・事業は顧客が離れず、結局、事業としての持続性も高い。
- 「いい仲間」としかやらないというのがポール・ハリスの精神。
- 潰れなければいいというものではない。仕事を懸命にやるのが大事ではないか。
- 同業者が集まる組織はNG。
- ポール・ハリスがロータリーを立ち上げた 1950年代のシカゴは荒廃していた。だからこそポール・ハリスは仲間うちだけの安心できる商いを目指した。ただしこの段階で「奉仕」の概念はない。奉仕の概念を導入したのは、その後のシドニー・シェルダン。

● 第2グループ

リーダー：阿部会員 リポーター：後藤会員

日時：2月9日(木)午後6時～

場所：銀座「サンク」 出席者：16名

私たちのグループは、事例2、事例4について討論をいたしました。

【事例2について】

- クラブの退会を促す。
- 自ら辞めて頂くのを待つ。
- 事例の思い切った判断という事が、合法的であれば仕方が無い。
- メンバーとしては言いにくいので、その会員の自主的な判断に任せる。
- 法に抵触するなら辞めてもらうべきだが、合法的ならばクラブとして勧告するのは筋が違っている。
- 自らの職業を全うすることが職業奉仕なのであれば、職業を全う出来なくなれば、退会を勧告す

べき。

- 自ら辞めるべき。地元において更生するつもりがあるなら第三者は何も言えない。
- クラブの評判にも影響があるなら勧告すべき。
- 法令違反をしていないのであれば、悪くなったから退会というわけにはいかない。
- 以上、法令違反かどうかという点と、クラブといて退会して頂くのか自主的に退会をされるのを待つのかという点がポイントとなっていました。
- また、職業奉仕の観点からすると、退会を勧告すべきでは・・・という意見が多く出ました。

【事例4について】

- 奉仕活動への関心は、実際入会してから芽生えてきた。今後、周りの会員が時間をかけて徐々に指導すべき。
- 入会后、人間関係を作っていく。それが出来なければ自然と辞めていくので増強すべき。
- 評判、周辺の話とかではなく、まずは事実を認識すべき。
- 奉仕活動をしたいと思って入会する人はいない。周りの会員との交流他、奉仕、ビジネス以外にも様々な魅力はある。参加していること自体が奉仕にもなるため、積極的に入会して頂き、その後その人が変わる可能性もある。
- 個人的に推薦する気がないならやめた方がいい。
- ビジネスも何もないのであれば、そもそもクラブとしての魅力はない。
- ビジネスのための入会で全く構わない。奉仕の精神は 初めはない。
- 入会して1、2ヶ月で判る。やってみなければ判らない。
- 入会后、様々なコミュニケーションで人は変わる。だから、たくさん入会してほしい。
- 以上、殆どの意見が、推薦して入会して頂くという結論になりました。
- 職業奉仕の精神は、入会后に徐々に醸成されていけば問題なく、それに伴い、ロータリーは人間力も高めてくれる。皆さん、このような意見でした。
- 最後に、私は初めてこのような会に参加させて頂き、ロータリークラブの意義がほんの少し解ったような気がしました。今後、ロータリー活動を通じて、職業奉仕の精神を身につけていこうと思います。
- また、東京セントラルパークロータリークラブの会員でいられることに感謝申し上げます。

◆◆◆ 先週の卓話 ◆◆◆
「イニシエーションスピーチ」



勝俣良美会員

勝俣良美でございます。
大先輩方の前で大変恐縮ですが、私の考えについてお話させていただきたいと思います。

大人として、子どもたちを幸せにしていくことは、私たち大人の責任であり、使命である。

私は、日本で生まれ、日本で育ちました。両親のお蔭でこの国に生を受け、両親をはじめ、たくさんの方々に育てていただき、今もたくさんの方々のお蔭で、この国で生きさせていただいています。皆さんに感謝していますし、とても幸せです。皆さんに大人に育てていただきましたので、私は大人として子どもたちを幸せにしていかなければいけないと思っています。

私が考える「子どもたちを幸せにしていく」ということは、子どもたちに直接的に何かをしてあげるのではなく、幸せに生きている大人の背中を見せていくことだと思っています。

幸せというのは富や名声ではなく、生きていられることを幸せだと考えられる気持ちだと思います。周りに感謝しながら自分の人生を満喫すること。自分だけの損得なんてつまらないものにとらわれるのではなく、相手が喜んでいれば、自分も嬉しいと思える気持ち。相手が悲しんでいれば、自分のことのように心を痛められる気持ち。そんな心豊かな、幸せな大人の背中を見せていくことが大人の責任だと思っています。

今までも色々な活動をしてまいりました。
私は3年前まで3年間ほど所属した青年会議所では杉並区の委員長もさせていただき、子どもた

ちに思いやりについて伝える事業を何回か実施しました。

東京の青少年復興支援の委員長をさせていただいた時には、被災地の子どもたちのための事業を5つ行いました。その任期中に、伊豆大島で台風による土砂災害が発生した時には、発生から復旧の目途がたつまでの3ヵ月間の間に述べ40日間近く大島に滞在し、先頭に立って復旧活動を行いました。

青年会議所を卒業した後も、災害が起きれば、個人ボランティアとして被災地に行って活動していますし、昨年の熊本大地震のときも、私の会社は物資がゆき届いていないいくつかの町と村と直接連絡を取り、必要としているものを4トラック満載にして現地にお届けしました。

それはもちろん困っている人の力になりたいという気持ちはありますが、それ以上に、困っている人を助けている大人の背中を子どもたちに見せたいからです。

人として相手を思いやる姿。

それともうひとつ、子どもたちに見せたい後ろ姿があります。

全ての責任は自分にある。人のせいにはしない。何でもかんでも人のせいにしてしまいがちな悲しい時代です。自分に不利益があれば誰かのせい。自分が面白くないことも誰かのせい。社会が悪いのは政治家のせい。

自分の損得しか考えていないからこそ、自分中心な考え方で人のせいにしてしまう。

もちろんここにいらっしゃる大先輩のみなさんはそのような考え方ではありませんが、悲しいですがそのような自己中心的な大人がたくさんいるのも事実です。

仮に理不尽なことをされたとしても、された自分にも何かしらの原因はあるだろうし、責任は自分にあります。

大人がなんでもかんでも人のせいにしていたら、その後ろ姿を見ている子どもたちはその生き方を真似てしまいます。

3年前に東京都トラック協会杉並支部の青年部長になりましたが、3年前から杉並区内の小学校で交通安全教室を始めました。毎年、2校ないし

3 校にて子どもたちにトラックを持ち込んで、車に死角があることと車が曲がる時には内輪差による巻き込みがあることを教えています。でも一番伝えたいのは車の特性ではなくて、自分には見えていても相手からは見えていないかもしれない。自分の立場があれば相手にも立場がある。自分の大切な命は自分で守るということです。

そしてもうひとつ。先生ではない地域のおじさんたちが子どもたちの為に活動している大人の背中を見せたいからです。

子どもたちが心豊かに幸せに生きて行けるように、大人の背中を見せていきたいと思っています。

少し時間が残りましたので私の生い立ちをお話したいと思います。

私は、先程は少し真面目なことをお話しましたが、若いころはいい子どもというよりは逆に悪い方で、今でこそ親に本当に感謝していますが、当時は若気の至りで、家業は継がないと言い放ち、せっかく行かせてもらった大学を勝手に辞めて 19 歳で家を飛び出しました。

肉体労働系でずっと働いていましたが、25 歳の時に当時職人たちの間では犬猿の仲だったサラリーマン、そのサラリーマンを経験してみたいと思い、輸入商社に入社しました。

3 年後の 28 歳の時、今から 15 年前にその会社でいろいろな出会いがあり、たまたまチャンスを得たことで、倉庫管理会社を起業しました。倉庫も車両も何ももないマンパワーだけの倉庫管理会社です。こちらは今も経営しています。

その会社とは別に 6 年前に運送会社を運営していた父が脳梗塞で倒れて働けなくなったので、家業を継ぎました。今は二つの会社を運営しております。

ここにいる大先輩の前ではまだまだひよっこですが、ひよっこなりに私が一番に考えていることは、会社を存続させていくことです。

このロータリークラブでは、奉仕の精神を学ぶと共に、大先輩方の背中を見ながら経営についても学んでいきたいと思っています。宜しく願い致します。

ご清聴ありがとうございました。



川松保夫会員

・昭和32年、1957年 東京下町の両国で生まれる。

・同じ下町でも川のこちら側と川向うでは大きな違いあり。

・川のこちら側とは日本橋とか人形町のことを指しており、いわばこちらが本物の下町。

・川向うという場合の川とは隅田川のことで、隅田川の向こう側の下町はかなり粗野なエネルギーに満ちたエリアでした。

・小学校の通学路に酒屋があり、その酒屋にカウンターの一杯飲み屋が併設されていて、真屋間から酒盛りしている脇を通りぬけていました。

・その後、墨田区立両国中学、東京都立両国高校へと進みまして、高校までは家から徒歩通学をしておりました。

・両国中学には相撲部屋から通っている相撲取りの卵たちが来ていまして、休み時間のたびに彼らと相撲を取っていましたので、相撲は随分と強くなりました。

・大学を出まして銀行に入りました。

・25 年間、銀行におりましたが、うち 10 年は国内営業店、15 年はマーケット部門に勤務しておりました。

・国内営業店の一つ、室町支店というところで松林会員と上司・部下だったこともあります。

・ロータリー入会前から、人間はなぜ働くのか、なぜに人間はこんなにも仕事には頑張れるのかと考えていました。

・ロータリーの職業奉仕を問い続ける姿勢には共感が有ります。ロータリーに背中をグイと押されていろいろと考え始めることが出来ました。

・今後とも何卒宜しく願いいたします。



後藤貴之会員

私は、本日のスピーチで、私が今日ここに至るまでの話をさせていただきます。

私は、大分県で生まれ、その後父が銀行員で転勤が多かったこともあり、福岡、北九州、広島、博多と転々となりました。

ただ、人に出身地を聞かれると、必ず「博多です。」と答えるようにしています。

そのほかの地域では殆どインパクトがなく、中洲のおかげで博多は皆さんに認知されているようです。ただ、私は高校までしか博多にいなかったため、中洲の話を読んでも殆ど判りませんが…

私は一度目の大学受験に失敗しました。その後の春休み、生まれて初めて東京に遊びに行く機会がありました。その際に、渋谷、新宿、池袋、上野、東京…巨大都市の数の多さに驚き、なんとしても日本の中心である東京で生活してみたいと思うようになりました。

そして、私には東京で生活をしたかったもうひとつの理由がありました。

当時、トレンドドラマが数多く放映されており、石田純一、浅野温子、浅野ゆう子等々の都会の生活に心底あこがれていました。

そのため、受験は東京の大学だけを10校受け受ければどこでもいいと思っていました。

その結果、夢のような東京ライフがスタートしました。まず、ジンを買い、トニックウォーターを買い、ライムを買い、マドラー、グラス…

テレビで見た東京のイメージに近づけていきました。

そして、大学入学三ヵ月後には、それらは全て、安物の焼酎の茶色い一升瓶となっていました。

大学時代はテニスに明け暮れ、父の影響もあり、

某都市銀行に就職をしました。

平成5年。当時バブル崩壊のあおりを受け銀行は貸し渋りをしていました。肩を落として帰っていく社長がいる反面、優良企業でしかもお金が必要ない会社に融資をする。更に、融資をしたお金を預金してもらう…

私は自分の存在意義、また銀行の存在意義が全くわからなくなっていました。

ある日、上司に質問をしたことがありました。

「どうして貸したお金を預金してもらうんですか？無駄じゃないですか？」と…

答えはこうでした。

「お客さんは、都銀と取引をすることに嬉しさを感じているのだからいいんだよ」

私は、この時銀行を退職することを決意しました。

とはいっても、何をしたいのか判らず、まずは銀行で働きながら簿記を勉強しました。

3級、2級と合格し、次に1級と思いましたが、銀行には全く未練がなかった私は、公認会計士の勉強をしようと、銀行を退職しました。

しかし、世の中そんなに甘くありません。

結局4年間勉強しましたが合格は出来ませんでした。そして、30歳を迎えた私は、就職雑誌を見てある会計事務所に就職しました。

当時、給料が安く、家賃、食費で精一杯だった私は、ワイシャツをクリーニングに出すことが出来ず、日曜日の夜、6枚のシャツにアイロンをかけていました。今となっては良い思い出です。

数年が経ち、あるお客様から相談を受けました。

結局、私の解決策だとお客様にリスクがあり、会計事務所のせいとされる可能性があるからという理由でその提案は却下されました。

また、銀行時代と同じ、「全くお客様の立場に立っていない」という感情を抱いていたところに、一本の電話がかかってきました。「ヘッドハンティングです。」 プルデンシャル生命でした。

プルデンシャルはフルコミッションで上司も部下もいない。だから、100パーセントお客様に軸足をおける。私は感じ、転職を決意しました。

ただ、当時の私は営業というものをやったことがなく、不安もかなりありました。

妻には、3ヶ月だけやらせて欲しい。そして、結果が出なければどこでも転職するから・・・

と言って妻を説得し、プルデンシャル生命の門を叩きました。

数年が経ち、前任の担当者が退職したため、萱森さんの担当をさせていただくことになりました。萱森さんは本当に良くして下さい、ある上場企業のAさんをご紹介頂き、お客様にもなって頂きました。

ある日、萱森さんから電話がありました。

「後藤さん、Aさんに人を紹介したよね？Aさんの会社とうちの会社と同じ仕事をしてるって知ってた？」「もう全部解約するから」

「今、頭に血が上ってるから、後藤さんも頭冷やして連絡してきて！」

その言葉を残し電話は切れました。

私は、頭は冷え切っており、むしろ背筋は凍るほど寒くなっていましたので、すぐに電話をかけ、翌々日にお時間を頂きました。

一時間くらいだったと思います。ひらすら謝罪をしました。

会社を後にしようとしたとき、

「後藤さん、電車？私も出かけるから一緒に行こう」私は断れるはずもなく萱森さんと一緒に会社を出ました。

そして、その電車の中で「後藤さん、今回保険を考えてるから、他社にも話をしてるんだけど、後藤さんも提案してよ。」

結果、追加でご契約を頂きました。

もし、この一言がなければ、今、私はここに立っていません。様々な人との出会い、様々な人との付き合い。その結果、今の私があるということに、本当に感謝しております。

職業奉仕、社会貢献・・・

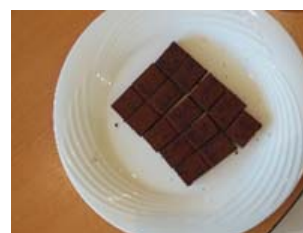
まだ何もわかっていない若輩者ですが、ロータリー活動を通じ、人としてもっともっと成長していきたいと思っております。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

以上、ご静聴ありがとうございました。



入会希望の溝口浩一氏



牧会員と女性会員より

皆さんにチョコレートのプレゼントです♥

—事務局からのお知らせとお願い—

* 例会欠席の場合は、前日までに事務局にご連絡下さい。

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30

例会場 ハイアットリージェンシー東京

会長 富永 英久 副会長 白石 正

幹事 鈴木 一成 会報委員長 杉本 義孝

事務局 〒166-0004

東京都杉並区阿佐ヶ谷南 1-34-6 新東京会館

TEL(03)3312-4959 FAX(03)3312-4958

E-mail: info@tokyocentralpark-rc.com

<http://www.tokyocentralpark-rc.com/>